幼保こ小がつながる

架け橋だより

「架け橋期」は、小学校入学前の5歳児から
小学校1年生までの2年間のこと。
子どもの成長にとって、とても大切な時期です。

R8 No.3

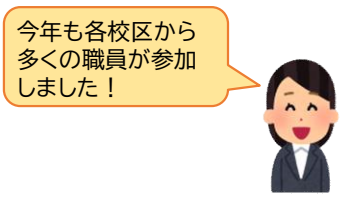
幼小合同研修会を開催しました

研修テーマ「**主体的・対話的で深い学びに向けて**
～幼児教育と小学校教育のつながりを考え実践に生かす～」

架け橋プログラムをすすめていく上で「子どもに関わる大人同士のつながり」は欠かせません。
今年度も8月6日に幼小合同研修会を開催し、市内保育・幼児教育施設と小学校の先生がたが集い、学び合いました。



子どもの姿を軸に互いの教育を知り、語り合いながら、明日、2学期から始められる保育や授業の工夫を考えました。



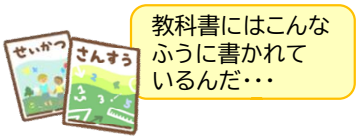
グループワーク



校区を中心としたグループに分かれ、幼児期の子どもの遊びの様子の写真から、子どもの思いや興味・関心、何を面白いと思い、何を試し経験しているのかなどの気付きを共有しました。また、子どもの育ちや大切にしたいこと、遊び（学びの芽生え）を支える環境や配慮を共に考えていきました。

そして、幼児期の育ちや学びをどのように活動や授業に生かせるかを具体的に考えました。





意見の共有

他のグループの考えも共有しながら交流を深めました。

幼小での共通点や捉え方の違いや、子どもの意欲を引き出す工夫など、多様な視点に触れながら活発な意見交換が行われました。





講師・大阪総合保育大学の瀧川光治教授からのご助言

「やってみたい！」という興味・関心が続く中で、子どもは「もっと楽しくしたい」と考え、仲間に思いを伝えたり話し合ったりしながら、試行錯誤を繰り返している（主体的で深い学び）。
こうした子どもの姿に注目し、何を楽しみ、何を学んでいるのかを見取り、幼小の職員が話し合いながら保育や授業づくりを考えていくことには大きな意味がある。

保育・幼児教育施設と小学校・小中一貫校、それぞれの立場から経験を語り合い、互いの話に聞き入る姿が見られました。熱心に学ぼうとする姿を前に、子どもの育ちを願うのは、保護者のかたも、保育・幼児教育施設も、学校も同じだと感じました。研修の中で気付いたこと、新たな学びを実際の活動や授業に生かしていただければと思います。

箕面市教育委員会事務局　子ども未来部　保育・幼児教育センター